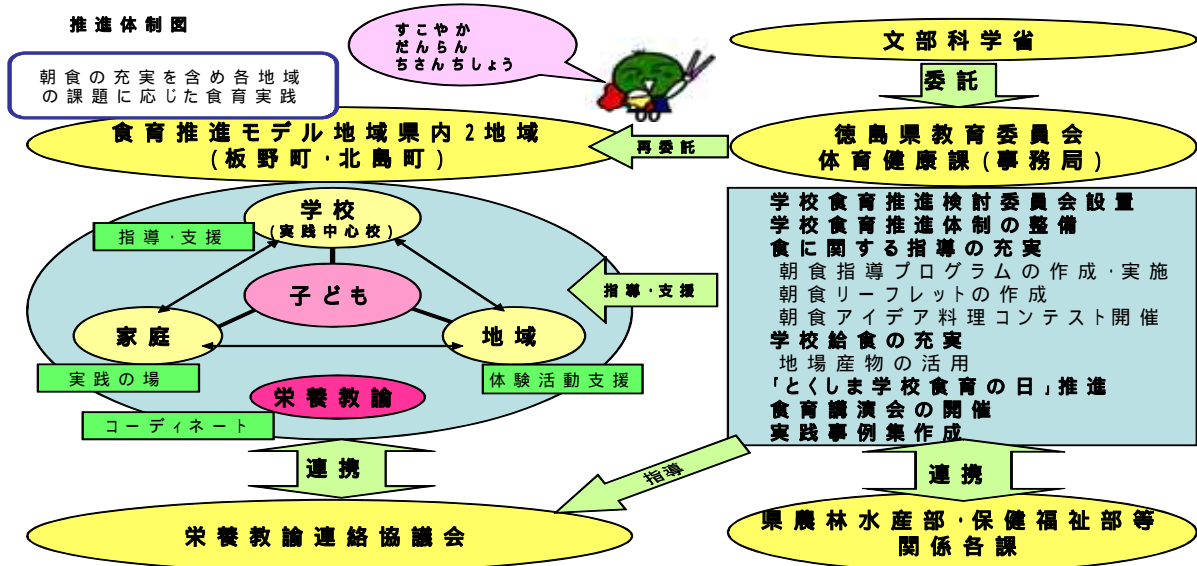


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	徳島県
推進地域名	北島町・板野町

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

【徳島県教育委員会】

テーマ1 学校食育推進体制の充実

- 学校における食育推進検討委員会の開催
食育推進検討委員会 平成24年1月30日(月)
(県庁9階 教育委員室 参加者15名)
<協議内容>
「平成23年度の取組と平成24年度の取組について」
 - 朝食アイデア料理コンテストの実施と成果
 - 朝食指導啓発資料の作成と効果
 - 食育推進モデル地域の取組
 - 高校生を対象とした食育の推進
 - 朝食をはじめとする望ましい習慣の形成
 - 郷土料理への理解や食文化を尊重する心の育成
- ワーキンググループ会議の開催
第1回会議 平成23年10月7日(金)
(県庁204会議室 参加者14名)
<協議内容>
朝食アイデア料理コンテスト第1次審査
朝食指導啓発資料の掲載内容



<食育推進検討委員会の様子>



<ワーキンググループ会議の様子>

第2回会議 平成23年12月5日(月)
(県庁204会議室 参加者12名)

<協議内容>

朝食アイデア料理コンテスト開催と結果報告
朝食指導啓発資料案の検討



<ワーキンググループ会議の様子>

(3) 各市町村における学校食育検討委員会の開催と充実

栄養教諭と市町村教育委員会食育・給食担当者が中心になって運営し、全市町村で開催した。

(4) 栄養教諭連絡協議会(食育コーディネーター研修)の開催

第1回栄養教諭連絡協議会開催 平成23年 5月13日 総合教育センター

第2回栄養教諭連絡協議会開催 平成23年 8月 9日 総合教育センター

第3回栄養教諭連絡協議会開催 平成24年 2月17日 総合教育センター (後で再掲)

テーマ2 食に関する指導の充実(朝食を中心とした望ましい食習慣の形成)

(1) 栄養教諭連絡協議会の開催

第1回

開催期日:平成23年5月13日(金)9:45~12:00

場 所:徳島県立総合教育センター

対 象:栄養教諭 33名

内 容:・平成23年度の取組について

- ・学校における食育推進の成果と課題~食に関する指導の調査結果から~
- ・市町村の学校における食育を推進するために(栄養教諭の果たす役割)

第2回

開催期日:平成23年8月9日(火)9:45~16:00

場 所:徳島県立総合教育センター

対 象:新任栄養教諭 14名

内 容:

- ・「総合的な学習に時間」における食に関する指導のポイントについて
- ・「体育科及び保健体育科」における食に関する指導のポイントについて
- ・新任栄養教諭2名による模擬授業~朝食をテーマとした食に関する指導~

中学校1年生 総合的な学習の時間

「なんとすてきな朝ごはん!」

小学校6年生 家庭科

「くふうしよう!朝の生活」

・授業研究会

<協議内容>

各教科等での朝食指導の方法

TTによる授業の進め方

教具の工夫 等



<授業研究会での発表の様子>



<研究集録の作成>

第3回

開催期日：平成23年2月17日（金） 9:45～12:00

場 所：徳島県立総合教育センター

対 象：栄養教諭 30名

内 容：

- ・平成23年度の取組について

体育健康課 指導主事 中山 淑子

- ・講義「人との出会いに守られて

～毎日農業記録賞を受賞して～

講師 あんちゃんふぁーむ 安崎 三代子 さん

- ・よりよい作物を作るための工夫や願い，学校給食に野菜を提供する仕組みや教育委員会・栄養教諭との連携について話を聞いた。

- ・協議「市町村の学校における食育推進～地産地消を推進する方策について～」

グループに分かれ協議・協議内容の発表

指導講評：文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課
森泉 哲也 食育調査官

- ・ただ地場産物を活用するのではなく，栄養教諭（指導者）自らが体験や交流によって地元の産物のよさを解し，学校給食を「生きた教材」として活用し伝えることで，子どもたちの意識が耕されていくことを指導いただいた。



<安崎さんの講義の様子>



<森泉調査官からの指導講評>

(2)朝食指導啓発資料の作成と配布

目 的：朝食の必要性と効果について，児童生徒とその保護者への啓発を図る。

内 容：朝食の役割と栄養バランスの重要性・鉄分やカルシウムの必要性・簡単朝食レシピの紹介・朝食摂取と学力の関係等

作 成 者：ワーキンググループ会議委員

配 布：県内各小中学校と保護者・教職員・市町村教育委員会等に配布し，児童生徒及び家庭への啓発を図った。



<小学校1～3年生用>



<小学校4～中学校3年生用>



<保護者用>

(3)朝食献立の募集「朝食アイデア料理コンテスト」の開催

対 象：県内小・中学生とその家族を対象に，地場産物を活用した朝食献立を募集。

1次審査：書類審査 平成23年10月7日（金）（県庁204会議室）

審査員...ワーキンググループ委員

応募総数317点（小学生151点，中学生166点）

最終審査：実演審査 平成23年11月26日（土）四国大学で開催

審査員長 四国大学 高橋 啓子 教授(学校における食育推進検討委員)

審 査 員 (5名) ・J A全農とくしま徳島県本部副本部長

・徳島県栄養士会理事 ・県教育委員会副教育長

・農林水産部とくしまブランド戦略課長 ・県教委体育健康課長

出 場 者 8組16名の親子（小学生4組，中学生4組）



<アイデア料理コンテストの様子>

最優秀【心も体もポッカポカおじや】

入賞作品は、「朝食アイデア料理レシピ集」として、県内 公立学校・市町村教育委員会及び関係機関に配布するとともに、3月5日、体育健康課ホームページで公開した。

(4) 「実践報告書」の作成・配布と実践発表会の開催

県教育委員会及び食育推進モデル地域の実践を冊子にまとめ、食育リーダー研修会で各学校に配付するとともに市町村教育委員会に郵送。

実践発表会

開催期日：平成24年2月17日（金） 13:25～14:25

場 所：徳島県立総合教育センター

対 象：栄養教諭，県内の公立小・中・特別支援学校の食育リーダー，学校栄養職員

発 表 者：北島小学校 栄養教諭 川村 圭子 「食育推進モデル地域の取組」

板野西小学校 栄養教諭 角瀬こずえ 「食育推進モデル地域の取組」

上勝小学校 栄養教諭 青木 恭子 「新任栄養教諭の取組」

(5) 食育講演会の開催

開催期日：平成24年2月17日（金） 14:40～16:00

場 所：徳島県立総合教育センター

対 象：栄養教諭，県内の公立小・中・特別支援学校の食育リーダー，学校栄養職員

内 容：講演

「学校における食育の推進
～教育内容と教育方法～」

講 師：文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課
食育調査官 森泉 哲也 氏



<森泉調査官の講演の様子>

テーマ3 学校給食の充実と地場産物の活用推進

(1) 学校給食における地場産物活用状況調査の実施

地場産物活用状況調査の実施

- ・対象調理場：121調理場（県内の栄養教諭・学校栄養職員配置の調理場）
 - ・調査期間：6月，11月，1月の連続した5日間
 - ・調査方法：食材数ベースで，県内産，国内産，外国産に分けて調査（県独自）
 - ・結果の通知：結果を毎回市町村教育委員会及び関係県立学校に通知し，意識啓発を図った。
 - ・年間活用率：平成22年度活用率 56.35% 平成23年度活用率58.24%
- 「学校給食供給ネットワーク」の充実
- ・市町村ごとに，学校給食供給ネットワークとして供給体制の充実を図った。
 - ・供給ネットワークの体制図は，3月末に各市町村から報告された。

テーマ4 学校・家庭・地域の連携による食育の推進

(1) 「とくしま学校食育の日～徳島す・だ・ち大作戦～」推進

各学校及び調理場で、毎月19日には、地場産物を活用した学校給食を実施した。

(2) 朝食指導啓発資料の作成と配布

保護者向け啓発用資料を作成し、児童生徒とその家庭に配布し啓発を図った（再掲）。

テーマ1～4に共通する具体的計画

栄養教諭連絡協議会の開催

数字で変化のあった事項について

料理コンテスト応募数

平成22年度 学校給食アイデア料理コンテスト（小学生 65点・中学生 35点 計100点）

平成23年度 朝食アイデア料理コンテスト（小学生 151点・中学生 166点 計317点）

地場産物活用率（食材数ベース・徳島県独自調査）

平成22年度56.35% 平成23年度58.24%

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

推進モデル地域は、同じ郡内の2町であったが、徳島市近郊の住宅都市として発展を遂げる地域、農業を基幹産業とする自然に恵まれた地域としてそれぞれの特色を生かし、実態に応じた取組を展開することができた。

各校食育リーダー（栄養教諭を含む）を対象として食育実践発表会を開催し、本事業の取組を県内に広報するとともに、食育講演会では、森泉食育調査官から学校における食育を推進するための教育内容と教育方法について指導があり、本県の課題についても明らかにすることができた。

新任栄養教諭は、研修課題として、所属校で「朝食をテーマとした食に関する指導」の実践に取り組み、県立総合教育センターの各教科等担当指導主事から、教科のねらいに沿った食育指導案の書き方や指導方法について指導を受け、今後の教科等での食に関する指導に生かすことが期待できる。第2回食育コーディネーター研修で、各教科等における食に関する指導のポイントについての指導を受け、模擬授業及び授業研究会を実施した。「教科等の目標や内容を達成する中で食育の視点を持ち、食に関する指導を意図的に行うこと」や、「TTによる授業の進め方」、「指導方法・教具の工夫等」について理解し身に付けるための機会となった。

県内小中学生を対象とした「朝食献立」を募集したが、応募総数は昨年度の3倍となった。コンテストでは、8組の親子が実演に取り組み、報道もされ、家庭への啓発の一助となった。

学校給食における地場産物の年間活用率は、各市町村で地元生産農家や生産者団体と連携・協力した地場産物供給ネットワークの充実が図られ、増加した。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

全公立学校で作成している食育全体計画は、学習指導要領の改訂に伴い、各校で食育全体計画や年間計画の見直しを行い、食に関する指導の充実を図る必要がある。その際、各教科等の目標や教科の特性に合い、明確な食育の視点をもった食に関する指導となっているか、偏った栄養指導に陥っていないか等について、指導力の向上を図っていくことが重要である。

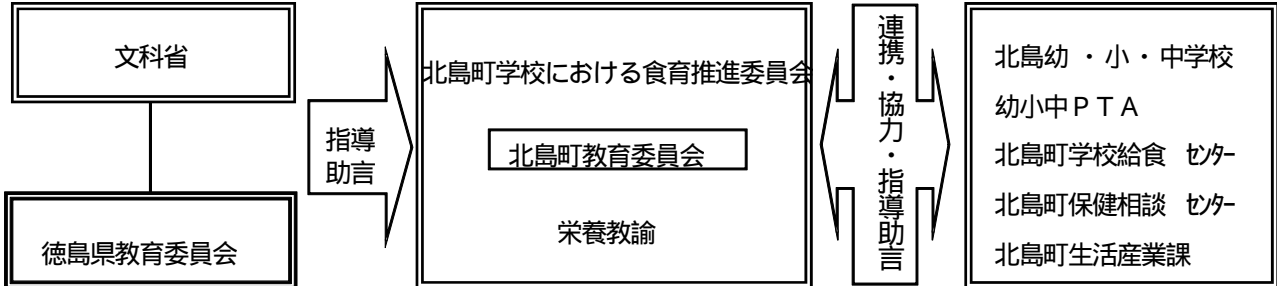
小・中学校の9年間を見通し、児童生徒や地域の実態に応じて到達度目標を定め、系統的に食育を推進するとともに、中学校における食育の充実、幼・小・中・高の校種間の連携についても考えていく必要がある。

朝食の欠食率や食事内容の改善を図るには、今後も、継続・反復して食に関する指導を行い、朝食の重要性や望ましい朝食内容についての理解を深め、実践力を身に付けさせる必要がある。児童生徒の意欲の高まりを家庭での実践に生かすために、各家庭の実態に配慮しながら個別に働きかけたり、学校で行っている食育について積極的に情報発信するなど、より一層工夫して家庭への啓発に取り組んでいくことも重要である。

再委託先名

北島町

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1 学校食育推進体制の充実

(1) 北島町学校における食育推進委員会の開催

- 効果的な食育を推進するための連絡調整や、学校・家庭・地域と連携した食育推進のために必要な研修等を行うことを目的に設置されている。今年度は、北島町の食育の課題の検討や、各校の取組の報告・成果などについて話し合った。

第1回 平成23年 6月20日(月) 出席者13名

第2回 平成23年11月30日(水) 出席者15名

第3回 平成24年 2月20日(月) 出席者13名



(2) 校内食育推進委員会の開催

- 食育全体計画と指導計画の見直しや実施状況の確認、食生活アンケートの内容の検討と結果の考察、食育講演会の実施内容などについて話し合った。

第1回 平成23年 5月24日(火) 出席者11名

第2回 平成23年11月 4日(金) 出席者10名



(3) 校内研修(食育)

- 今年度の取組についての報告と他校(町内)の取組を紹介し、来年度の指導計画の見直しができるようにした。

実施日 平成24年 2月 9日(木)

テーマ2 食に関する指導の充実(朝食を中心とした望ましい食習慣の形成)

(1) 食育全体計画・年間指導計画の作成と実践

- 新学習指導要領に沿った全体計画と指導計画を作成し、各学年で食に関する指導に取り組んだ。

3年生総合「大好き 北島」

5年生学級活動「じょうぶな骨をつくらう」

給食委員会の活動



(2) 食生活アンケート調査の実施

- 平成23年6月中旬に北島小学校において実施。就寝・起床時刻などの生活習慣や食事、おやつなどについて調査し、実態の把握に努めた。
- 平成24年1月中旬に第2回を町内3小学校と中学校において実施。朝食の摂取率については、小学校では大きな変化はみられなかったが、中学校では改善がみられた。朝食を食べない日がある児童生徒の多くが、朝食の内容は主食のみと答えており、「時間がないので主食しか食べていない」「朝食に魅力がないため食欲がわからない」などの理由も考えられる。

(3) 北島町学校食育の日

- 地場産物や郷土料理を取り入れた給食献立とし、担任用指導資料と教室用掲示物を作成し、全クラスに配布した。19日の給食時には、全クラスで担任が給食に使われている地元の食材について話ができるようにした。

指導資料 5月19日：「たまねぎ」
7月19日：「夏野菜」
10月19日：「米」
12月19日：「ねぎ」
1月19日：「だいこん」

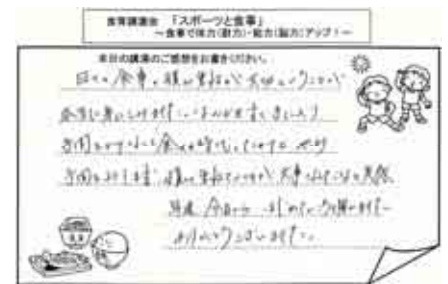


(4) 食育講演会の開催

- 平成23年11月2日(水)北島小学校において保護者と5年生・6年生の児童を対象に実施した。参加保護者数約65名、5年・6年児童数約180名。

演題： 「スポーツと食事」～食事で体力(耐力)・能力(脳力)アップ!～
講師： 管理栄養士 山上 文子 氏

事前の打ち合わせにおいて、講話内容は、スポーツ選手の食事の管理などの話を交えながら、成長期の子どもの食事全般について、特に朝食の重要性についてお話をさせていただくようお願いした。実施日は、保護者が参加しやすい参観日とした。



テーマ3 学校給食の充実と地場産物の活用推進

(1) 献立年間計画の作成

- 地域の食材や行事食を計画的に献立に取り入れ、教科との関連も考えた献立作成ができるようにする目的で、献立年間計画を作成した。

(2) 生産者訪問及び啓発資料作成

- 生産農家を訪ね、取材したことを食育の日の指導資料や給食だより、給食放送などで児童や保護者に紹介した。地域の生産者の思いや、給食で使用していることを伝え、地産地消への関心を高めた。

(2) 給食試食会の開催

- 保護者や地域の人々に学校給食への理解を深めてもらうとともに、家庭の食生活改善を図る目的で実施した。今年度は、「給食センターの紹介と地場産物の活用」をテーマに、給食センターでの衛生管理の取組や地元でとれた野菜を使用している様子をスライドで紹介し、地産地消の良さを確認してもらった。

平成23年5月19日(木)町教育委員給食試食
 平成23年5月31日(火)北島幼稚園・小学校給食試食会
 平成23年6月16日(木)北島南小学校1年生親子給食試食会
 平成23年6月17日(金)北島北幼稚園・小学校給食試食会



(3) 親子料理レシピ集の作成

- 過去3年間の親子料理教室で実施したレシピをまとめ、抽選で参加できなかった人たちにも家庭で楽しく作ることができるようにレシピ集を発行し、町内幼・小・中学生の家庭に配布した。



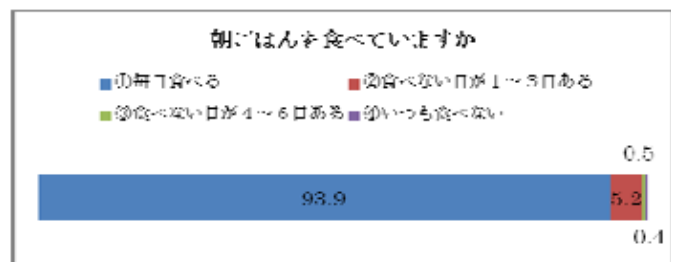
(4) 学校保健委員会

- 学校での食育の取組や家庭での食事について、学校医と保護者に話をする機会を持った。食育の必要性や、学校での指導の効果を上げるためには、地域や家庭との連携が必要であることを訴えた。

テーマ1～4に共通する具体的計画

6月の食生活アンケート調査結果から見てきた傾向を踏まえて、朝食摂取率や朝食の内容について改善を図るとともに、望ましい食習慣を身につけた子どもの育成に取り組む。

- 教科や特別活動における食に関する指導
- 食育講演会の開催
- 親子料理教室の実施
- 給食時間の学級訪問
- 給食だよりによる啓発
- 給食放送の活用
- 給食委員会の活動
- 給食掲示物の作成



残菜調査を実施することで、食事の重要性や感謝の心、地域の食材を大切にすることを育てる。

- 教科や特別活動における食に関する指導
- 調理員による給食時間の学級訪問
- 食育の日の地場産物の活用
- 給食だよりによる啓発
- 給食委員会の活動



数字で変化のあった事項について

朝食摂取率<毎日食べる>

- ・1月の調査がインフルエンザの流行と重なり、正確な結果が得られたとは言えないが、中学校で改善がみられた。

北島小学校	平成23年6月	94%	平成24年1月	92%
北島町3小5年生平均	平成22年度	91%	平成24年1月	92%
北島中学校2年生	平成22年度	81%	平成24年1月	87%

朝食の内容<主食のみ>

- ・わずかではあるが改善がみられた。

北島小学校	平成23年6月	27%	平成24年1月	26%
北島3小5年生平均	平成22年度	35%	平成24年1月	33%
北島中学校2年生	平成22年度	35%	平成24年1月	33%

給食（おかず）の残菜率（町内幼小中の平均）

- ・給食時間の指導や給食委員会の活動などにより、給食の残菜は毎年減ってきている。

平成22年度平均	9.6%	平成23年6月	7.5%	平成23年11月	5.8%
----------	------	---------	------	----------	------

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

それぞれの学校で、食育リーダーが中心になって他の教職員と共通理解を図りながら、食に関する指導が行われるようになった。北島町学校における食育推進委員会で取組を報告しあうことにより、情報を共有したりアイデアを交換したりできるようになった。

親子料理教室では、毎回定員を上回る参加希望があり、調理を通して親子のふれあいや信頼関係が築けている。親子で料理をすることの大切さや、子どもに料理を教えることの大切さを保護者に感じてもらうことができ、健康に過ごすための食生活について親子で考える場になっている。

今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

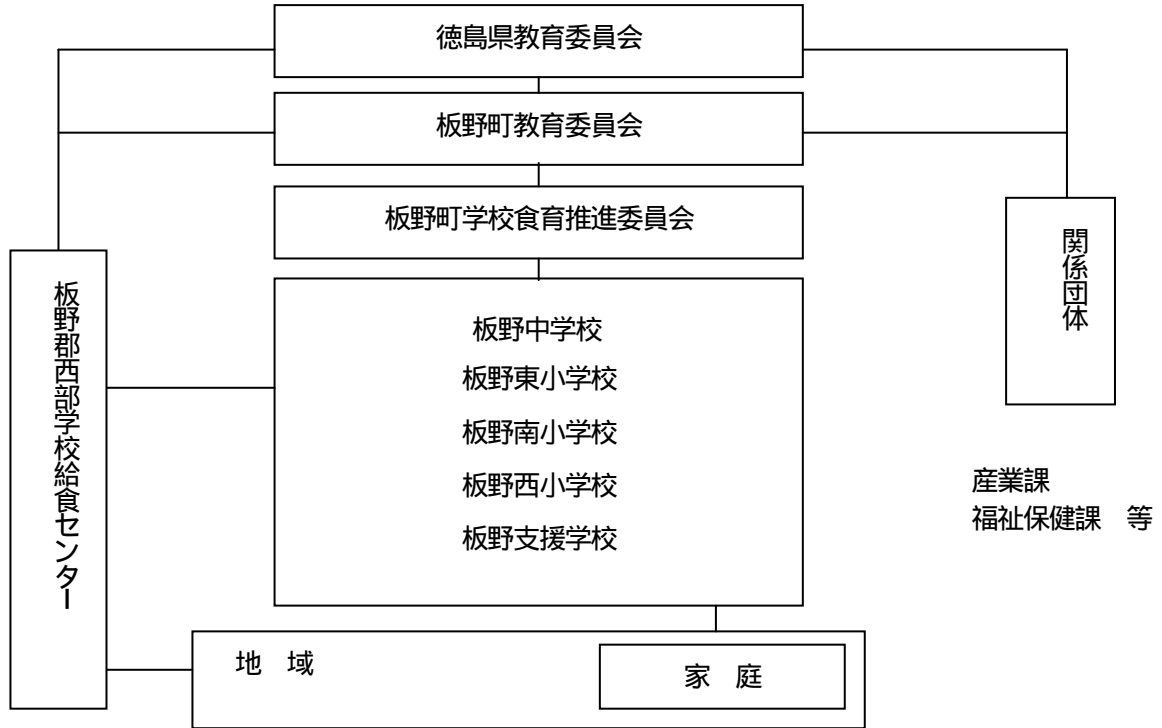
各校で地域や家庭の協力を得て体験活動に取り組んでいるが、毎日の食事や生活習慣も保護者の理解や協力がなければ改善できないことから、今後も地域や家庭への働きかけを継続的に行う必要がある。

全体計画や年間指導計画に沿った食に関する指導を全クラスで行うことができるように、学校における食育の重要性について共通理解を図るとともに、地域や子どもの実態から計画の見直しを行い、実践できる食育の計画を作成しなければならない。

再委託先名

板野町

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1 学校食育推進体制の充実

(1) 板野町学校食育推進委員会

第1回会議

ア 開催年月日 平成23年5月10日(火)

イ 協議内容

規約について

食育の重点目標について

- ・朝ごはんの充実とする。

具体的な取組について

- ・朝ごはんの重要性についてのリーフレットを作成して、児童・生徒に関心を持たせるとともに、家庭にも啓発する。
- ・夏休みに簡単にできる朝ごはんの親子料理教室を開催する。
- ・夏休みに朝ごはんレシピを募集する。
- ・板野町の特産物をプリントしたランチョンマットを作成し、その活用を通して地域の特産物への理解を深める。

第2回会議

ア 開催年月日 平成24年2月28日(火)

イ 協議内容

食育推進事業報告

今年度の反省

来年度の取組について

(2) 食育リーダー部会

ア 開催年月日 平成23年12月12日(月)

イ 内容



食育リーダー部会

テーマ2 食に関する指導の充実

(1) 学級指導

2年生 学級活動「やさいとなかよし」

夏野菜の種類や体内での働きを知り、残さず大切に食べようとする気持ちを持たせる。

3年生 総合的な学習の時間

板野町の特産物に親しみを持たせる。

また、朝ごはんを食べていても主食だけしか食べていない児童が多くいたので、板野町の特産物を使って簡単にできる朝ごはんの調理実習をすることにより、朝ごはんを充実させる。

「れんこん栽培に挑戦」

板野町の特産物であるれんこんを栽培した。

「板野町の野菜を使って - 簡単！うちの朝ごはん -

板野町の特産物を使って簡単にできる朝ごはんの調理実習をした。



学級活動「やさいとなかよし」



れんこん栽培に挑戦



板野町の特産物を使って
- 簡単！うちの朝ごはん -



れんこんの照り焼き

5年生 総合的な学習の時間

「板野町の特産物を使った食事作り」をテーマに、地域のスーパーやJA、板野町役場等で板野町の特産物を調べた。その中から、4種類の野菜を育てて、収穫した野菜を使ったオリジナルレシピを考え、調理した。

(2) 食育講演会

中学校1, 2年生の生徒を対象に大塚製薬陸上部管理栄養士、山上文子先生に、「スポーツと栄養」について、また、「中学生の時期の食事」について講演していただいた。

(3) 保健・給食集会

給食委員会と保健委員会が合同で「朝ごはんを食べよう」の劇をし、そのあと、クイズをして、朝ごはんについて全校児童で考えた。

(4) 朝食アイデア料理コンテストに応募

6年生が家庭科の時間に朝食のメニュー作りの学習をしたあと、夏休みの宿題で「地場産物を使った朝食メニュー作り」をし、その献立を県主催の朝食アイデア料理コンテストに応募した。そのうちの1組が書類選考による一次審査を通過し、お父さんと一緒に参加した調理実習の最終審査で最優秀賞を受賞した。



食育講演会



保健・給食集会
劇「朝ごはんを食べよう」



朝食アイデア料理コンテスト
最優秀賞受賞作品
「心も体もポッカポカおじや」

(5) 体験活動

板野支援学校、大坂分校では、年間約20種類の野菜を育てており、その野菜を使って調理し、試食をすることによって、食への興味・関心が高まり、感謝の気持ちが育った。また、嫌いな野菜でも食べられるようになった。



野菜の栽培



調理実習



試食

テーマ3

学校給食の充実と地場産物の活用

(1) 給食主任者会の開催

学校給食での地場産物の活用状況を周知した。

(2) 児童が栽培したゴーヤやにんじんを給食に使用した。



ゴーヤを紹介した掲示資料



ゴーヤの調理



ゴーヤ入り夏野菜カレー

(3) 体験活動

学校でのれんこん栽培やれんこん農家の見学

(4) とくしま学校食育の日

毎月19日に地場産物を活用した献立を実施し、児童・生徒には掲示資料で、また家庭には給食だよりで啓発している。



外部講師によるれんこんの授業



れんこんの植え付け



掲示資料

テーマ4

学校・家庭・地域の連携による食育の推進

(1) 料理教室の開催

夏休みに簡単にできる朝ごはんの親子料理教室を開催した。

低学年の児童でも作れる簡単朝ごはん料理教室を学校毎に開催した。

(2) 学校給食試食会の実施

給食を試食後、朝ごはんの大切さについて講話した。

(3) 食育講演会の実施

保護者対象に「命をはぐくむ食育」という演題で講演会を開催した。

(4) 参観日に食育の授業を実施

2年生が学級活動「元気な子」で丈夫な体をつくるためには、栄養・運動・睡眠が大切であるが、本時では栄養について考えた。



親子料理教室



給食試食会



参観授業

(5) ランチョンマットと食育リーフレットの作成

板野町農畜産物マップと朝ごはんの大切さをプリントしたランチョンマットと食育リーフレットを作成し、町内の児童・生徒に配布した。

ランチョンマットは布でできており、50cmの大判サイズになっているので、学校での調理実習や家庭での調理のときの三角巾として、また、お弁当用のふるしきとしても利用できるようになっている。

家庭科の時間にランチョンマットを配布し、板野町の特産物が何か、農畜産物マップで確認したあと、板野町の特産物であるれんこんを使った調理実習を行った。

実習後、「板野町の特産物のよいところをたくさん知って詳しい人になりたい」「そのよさを思いっきり生かせる料理を作りたい」と感想を書いていた。



れんこんを使った調理実習



ランチョンマット

テーマ1～4に共通する具体的計画

食生活や学校給食に関するアンケートを実施し、その結果をもとに食育の推進に取り組んでいく。

学校給食試食会、食育講演会、料理教室、食育だより等で朝食の重要性について知らせる。

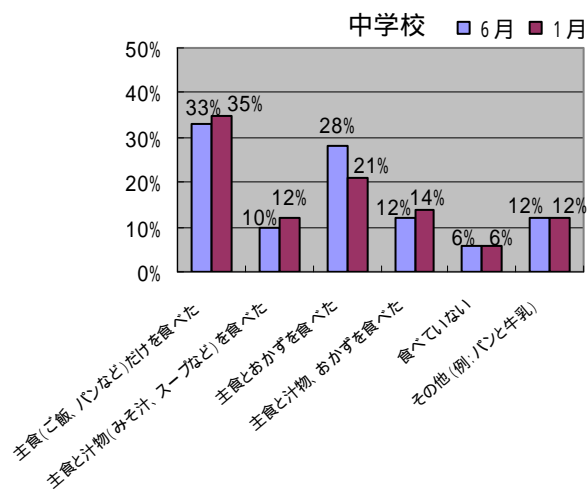
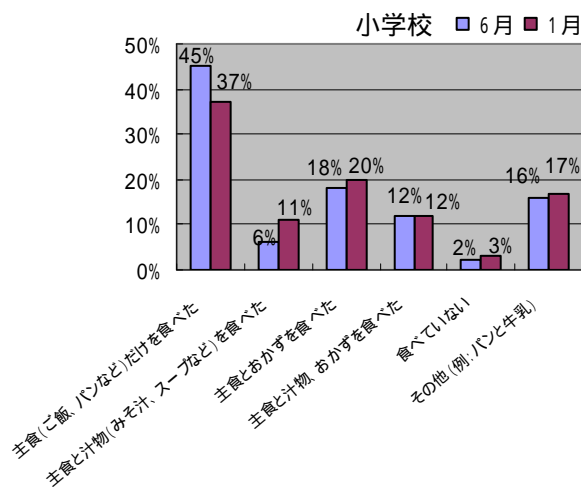
板野町の農畜産物マップと朝食の重要性をプリントしたランチョンマットを作り、町内の児童生徒に配布する。

講師を招いての食育講演会を開催し、朝食の重要性について知らせるとともに、食への関心を高める。

板野町の特産物であるれんこんを学校で育てることにより、地場産物について、興味関心を高める。

数字で変化のあった事項について

朝ごはんの内容について（平成23年6月と平成24年1月にアンケート実施）
今朝の朝食は何を食べましたか。



朝食に主食だけを食べた児童	45%	37%
朝食に主食と汁物を食べた児童	6%	11%
朝食に主食とおかずを食べた児童	18%	20%
朝食に主食と汁物を食べた生徒	10%	12%
朝食に主食と汁物、おかずを食べた生徒	12%	14%

地場産物活用率（食材数ベース）

平成22年11月 45.4% 平成23年11月 48.0%

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

板野町の特産物であるれんこんを栽培したり、れんこん農家に見学に行ったり、また、地域の方から話を聞いたことにより、自分の住んでいる町の特産物を身近に感じ、興味関心を高めることができた。

地場産物を給食に使うことにより、自分の住んでいる町でどのような野菜がとれているか興味関心を高めることができた。また、板野町の農畜産物マップや朝食の重要性をプリントしたランチョンマットを町内の小中学生に配布したことにより、家庭への啓発にもなった。

夏休みに、簡単にできる朝ごはん親子料理教室を開催したことにより、家族で朝ごはんの大切さについて考えるきっかけとなった。

中学生対象に企業の陸上部の栄養管理をされている方に「スポーツと栄養」という演題で講演していただいたことは、部活をしている生徒にとって、大変興味深い内容だったので、熱心に聞くことができ、実践につながった。

今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

朝食を毎日食べる児童・生徒の割合は、6月に比べて1月のほうが減少している。また、その内容については、小学生では主食だけ食べた児童が減少し、主食と一緒におかずや汁物を食べた児童がわずかに増加したものの、中学校では主食だけ食べた生徒が増加している。朝食の大切さや栄養のバランスなどの知識は身につくつつあるものの、それが生活で実践できていないという実態がある。今後も、家庭と連携した指導を継続する必要がある。地場産物の活用については、品目も納入業者の数も増えてきているが、調査した11月については数値的にはわずかにしか増えていない。1年を通してみると、季節により、また、同じ月でも献立により差があるので、今後も納入業者、生産者の理解を得ながら、地域の産物を活用していきたい。